

ウィンタースクール「昔の遊び 凧づくりに挑戦しよう」

凧づくり、昔の遊びを体験します。

と き 令和5年1月13日（金）

午前10時～12時

ところ 別海町郷土資料館

内 容 昔の遊び 「凧作り」

対象者及び募集人員

小学生 先着5名

申込等 12月25日（日）までに電話・FAX・メール

にてお名前と電話番号をお知らせください。



ふるさと講座・自然系第2回目の様子

小さな冬の使者ユキホオジロを訪ねる観察会～

11月26日（土）参加者10名により観察会を実施しました。講師はNPO法人野付・エコ・ネットワークのみなさんです。

講師よりユキホオジロのお話をしていただき、その後、野付半島先端に車で移動しました。淡水池の観察舎にてオオハクチョウやカモ類を観察しました。

車で通行可能な池田番屋からは、徒歩で先端を目指しました。先端に到着しましたが、非常に強い風のため、なかなかお目当てのユキホオジロが見つけれず、1羽だけ飛び立つところを4、5名の参加者が目撃できただけでした。それでも途中ハマシギなども観察でき、参加者も満足そうな様子でした。

●観察出来た野鳥など

ユキホオジロ・コクガン・オジロワシ・オオハクチョウ・クロガモ・スズガモ・ヒドリガモ・オナガガモ・ウミアイサ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ホシハジロ



国立アイヌ民族博物館で「加賀家文書等資料」が展示公開されました。



9月17日（土）から11月20日（日）に、国立アイヌ民族博物館第5回特別展示「アイコロ ウエカリレ アイヌ資料をコレクションする」が、開催されました。

この特別展示には、「加賀家文書等資料」のアイヌ資料9点、文書資料3点が展示公開されました。当館のアイヌ資料は、加賀家がコレクションしたもので、年代は、近世幕末から近代初期が想定されます。

特別展示では、加賀伝蔵の紹介や松浦武四郎との交流が大きく紹介されました。また、各地域に配布された左のポスターやチラシに掲載されたタ

シロ（山刀）・マキリ（小刀）

の制作者に関する情報も寄せられました。今後とも多くの方に見ていただけるよう努力したいと考えております。



ヲ子コイチャシ、チフルチャシの物語（「加賀家文書等資料」から）

チャシとは、砦、柵、柵囲いを意味するアイヌ語で、河川、海、湖沼を望む丘陵の先端部や頂部に円形、半円形、方形などの空境で区画された遺構を指します。13～18世紀にアイヌが構築したものであり、その成立や性格は明らかになっていませんが、「聖域」「祭の場」「話し合いの場」「見張り場」「砦」などに使用されたと考えられています。

「加賀家文書等資料」には、二つのチャシの間で起こった抗争を描いた物語があります。この物語に出てくる地名は、別海町の春別川から標津町の地域にかけてのもので、チャシの構造、戦いの様子など物語ということだけではなく、伝承的なものも入っていると考えられます。制作者は、加賀伝蔵と思いますが、幕末にアイヌから聞き取りしたものと思われる。



引用文献 本田克代 1981『北海道東部のヲ子コイチャシ、チフルチャシの一物語』
北海道チャシ学会研究報告 1

別海町郷土資料館だより No.281

発行日 令和4年12月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町 30 番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記 国立アイヌ民族博物館にて加賀伝蔵と松浦武四郎の資料が同ケースにて紹介され、深く感銘を受けました。研修会にて拝見する機会を得、三重県松阪市の松浦武四郎記念館長山本命氏と見学しました。武四郎が幕末に唯一交流のあった蝦夷地の和人は加賀伝蔵だけであり、山本館長とは今後のさらなる交流を話し合いました。